

台灣週報

Taiwan Weekly Review

[インターネット版 <http://www.roc-taiwan.org/JP/>]

中華民國101年双十国慶節特集



2012年1月14日に総統選挙で再選され、5月20日、中華民國第13代総統に就任した馬英九総統。就任演説で、2期目の決意とビジョンを語った。(写真：総統府提供)

双十国慶節祝辞 沈斯淳代表 …… 2

東シナ海平和イニシアチブ
馬英九総統が提起 …… 4

存在感増す台湾の国際参加 …… 5

進化する
台日特別パートナー関係 …… 6

ますます深まる観光交流 …… 8

進展する台日間の産業協力
— 經濟部が支援する産業連携推進 — …… 9

馬英九・中華民國第13代総統
就任演説
〜2期目の決意とビジョンを語る〜 …… 10

台日文化芸能の出来事 …… 16

雙十國慶節祝辭

台北駐日經濟文化代表處 代表 沈 斯 淳

101回目の中華民国國慶節

10月10日は中華民国の建国を祝う双十國慶節記念日であります。孫文先生が1911年の辛亥革命によって中華民国を建国し、今年は101回目の國慶節を迎えることとなりました。

總統選挙で民主主義が成熟

今年台湾では1月14日に總統選挙を実施し、馬英九總統が再選されました。台湾では国民による直接投票



沈 斯 淳・駐日代表

で選出される總統選挙が1996年以来、これまで5回実施されましたが、今回は特に平和的・理性的に選挙活動が進められ、台湾の民主主義が一層成熟したと国際社会からも高い評価を受けました。

熱烈な歓迎に感謝

再選された馬總統は、5月20日に就任4周年を迎え、2期目の任期に入りました。私は馮寄台・前駐日代表の後任として、5月30日に駐日代表に着任しました。私は今回、初の日本駐在ですが、以前より外交部常務次長(事務次官)として対日外交に関わってきました。東京羽田空港に降り立ったとき、在日台湾華僑および日本人の皆様の熱烈な歓迎を受け、非常にありがたく感じたと同時に、良好な台日関係を発展させていくことへの重責を、強く実感いたしました。

震災復興支援の成果は誇り

昨年は、東日本大震災により、日本は未曾有の被害を受けました。台湾も日本と同様に地震等の自然災害が頻発する国であり、台湾で以前、震災や水害が発生した際には、日本から大きな支援が寄せられたことから、台湾の人々は、日本で発生した震災をわがことのように受け止め、自発的に救援物資や義援金寄付などの支援活動を行いました。

私も着任以来、東北の被災地を何回か訪問し、今年8月には台湾赤字が支援して建てられた福島県相馬市の災害公営住宅「相馬井戸端長屋」の竣工式に出席し、台湾からの支援の成果を確認してまいりました。また、日本の震災復興が力強く着実に進みつつあることが実感できました。そのほかにも台湾の民間の慈善団体が被災地の支援活動に熱心に取り組

み、現地の人々から大変感謝されたことを、私は台湾の駐日代表として大変誇りに思います。このような台湾と日本の友好の絆をこれからも大切にしていかなければなりません。

さらに進む良好な台日関係

台日関係は、前任の馮代表の3年余りの在任中に、駐日代表処札幌分処および台北文化センターの開設、台日間のワーキングホリデー協定、投資協定、航空自由化協定等の締結、そのほか日本の国会における「海外美術品等公開促進法」の成立によって台北の国立故宫博物院の文物が日本で展示できるようになるなど大きな進展がありました。

私はこれまで諸先輩の皆様方が築き上げてこられた良好な基礎の上に、台日関係の新たな局面を切り開いていく所存であります。また、台日関係進展のために日本の国会で長年にわたりサポートしてくださっている日華議員懇談会の平沼超夫会長をはじめとする日本の衆参両院の国会議員の先生方に、厚く御礼申し上げます。今後とも引き続き良好な台日関係を共に推進、発展させていくため

にお力添えを賜りたく存じます。

深まる経済・文化交流

台日間の往来は、昨年11月に締結した航空自由化協定によりオープンスカイが実現し、今年春から新たに静岡、鹿児島、富山、函館、旭川、釧路などの各都市と台湾を結ぶ航空路線が次々と開設されたことにより、今年上半年の台日間の旅行者数は順調に増加し、約145万人となり、今年は昨年の250万人を大幅に上回る300万人の目標を達成できる見通しです。

経済面では、昨年9月の台湾投資協定締結後、さらなる台日経済連携を推進していくため、昨年12月に行政府が「台日産業連携架け橋プロジェクト」を認可し、今年3月21日に台湾側の投資の窓口である「台日産業連携推進オフィス」が開設されました。昨年の日本から台湾への投資件数は441件で、過去最高を更新しました。また、日本企業が「兩岸経済協力枠組み協議」(ECFA)の関税減免措置等を活用して台湾を大中華市場のゲートウェイにできることから、今後台日企業が提携して

中国大陸及び第三地市場に共に進出するビジネスモデルがますます広がることを期待しています。

文化面では、今年5月に当駐日代表処で「八田與一展」を開催いたしました。八田氏は、石川県出身の土木技師で、日本統治時代の台湾で、嘉南平原を潤す烏山頭ダムと灌漑水路の建設に大きな貢献を果たしました。烏山頭ダムには昨年、八田與一記念公園が開園し、今年4月には八田技師と同じ石川県出身の森喜朗・元首相に台日友好「絆の桜」植樹式にご参加いただきました。烏山頭ダムは私の故郷である台南市にあり、このような形で台日間の友好交流が深まることを大変うれしく思います。そのほか、今後の台日間の主な文化交流は、来年4月に宝塚歌劇団の台湾公演を予定しているほか、2014年には日本で国立故宫博物院文物の特別展開催を予定しています。

最後に、皆様のご健勝と、ご多幸を祈念し、中華民国と日本国の一層の友好と発展を願い、私の挨拶とさせていただきます。

【台北駐日経済文化代表処】

沈斯淳・駐日代表の紹介

沈斯淳

しん・しじゅん

Shen-Tsun Shen

1953年9月生まれ

學歷

1975年 国立台湾大学政治学科卒業

經歷

1980年～1982年

1982年～1986年

1986年～1989年

1989年～1992年

1992年～1995年

1995年～1998年

1998年～2001年

2001年～2003年

2003年2月～9月

2003年～2008年

2008年～2010年

2010年～2012年5月

2012年5月30日～

外交部北米司(局) 職員

駐ニューヨーク弁事処三等秘書(書記官)

駐ニューヨーク弁事処二等秘書(書記官)

外交部国際組織司(局) 課長

外交部国際組織司(局) 副司長

駐バンクーバー弁事処代表

駐カナダ代表処副代表

外交部国際組織司長(局長)

外交部西アジア司長(局長)

駐チエコ代表処代表

外交部主任秘書

外交部常務次長(事務次官)

台北駐日経済文化代表処代表

「東シナ海平和イニシアチブ」

馬英九總統が提起

馬英九總統は8月5日午前、台北賓館で外交部と国史館が共同主催する「中華民國と日本国との間の平和条約発効60周年記念展示会及びシンポジウム」に出席し、挨拶した。馬總統は、最近釣魚台列島(日本名:尖閣諸島)を巡る争議が日増しに高

まり、その緊張した情勢を憂慮している。このような緊張情勢を緩和するため、「東シナ海平和イニシアチブ」を提起した。それは関係国が自制し、争議を棚上げにし、平和的手段で争議を処理し、並びにコンセンサスを求め、東シナ海行動規範を作り、資源を共同開発するためのメカニズムを構築し、東シナ海の平和を確保するよう呼びかけるものである。

釣魚台列島は中華民國の領土

釣魚台列島は台湾の付属島嶼であり、台湾北東の東シナ海に位置し、台湾に一番近く、南へは基隆まで僅か102カイリしかない。その行政管轄は宜蘭県頭城鎮大溪里に属している。歴史、地理、地質、使用の実

績からしても、また国際法から見ても、釣魚台列島は中華民國の領土であることは何の疑いもないことである。したがって、釣魚台列島を巡る争議に対してわが国から「東シナ海平和イニシアチブ」を提起するのは適切で意義深いものがある。

中華民國は平和を愛する国である。わが政府としては、一貫して国際紛争は国連憲章の規定に則り平和的手段で解決すべきと主張する。釣魚台列島を巡る争議に対する立場は、「主権はわが国にあり、争議を棚上げ、平和互惠、共同開発」である。

この争議と関係ある東シナ海は、西太平洋海空航路の要衝に位置しているため、アジア太平洋地域、ひいては世界の平和と安定にも関わっている。東シナ海地域が不安定な状態に陥らないため、東シナ海を巡る争議は多国間メカニズムを通じて、平和的な対話で争議を解決することを強く望む。そのため、中華民國政府は「東シナ海平和イニシアチブ」を提言する。

「東シナ海平和イニシアチブ」

我々は関係国に次のように呼びかける。

- 一、対立行動をエスカレートしないよう自制する。
- 二、争議を棚上げにし、対話を絶やさない。
- 三、国際法を遵守し、平和的手段で争議を処理する。
- 四、コンセンサスを求め、「東シナ海行動基準」を定める。
- 五、東シナ海の資源を共同開発するためのメカニズムを構築する。

東アジアの平和と繁栄のために

この60年来、東アジア各国の経済が著しく発展し、繁栄をもたらした。残念ながら、最近釣魚台列島の問題によって絶えず争議が発生し、また、最近この地域の緊張情勢によって東アジア地域の平和と安定を脅かす恐れがあると危惧している。我々はその得難い平和と繁栄を考え、東アジアで似たような惨事が再発しないよう切に願っている。

そのため、我々は「東シナ海平和イニシアチブ」を通じて、関係国に

現在の北東アジアの領土問題が深刻な事態を引き起こしかねないことを直視し、平和的に争議を処理し、東シナ海の平和を維持するよう呼びかける。

わが政府は東シナ海に対しても、関係国が国連憲章及び1982年国連海洋法条約第279条に基づいて、平和的に紛争を解決し、「東シナ海行動基準」を作り、領土、主権及び資源利用などの問題に関する行動規範を定めることを希望する。

国家の領土と主権は分割できないが、天然資源を分かち合うことは可能である。世界には主権の争議ある海域と島嶼は少なくない。しかし、ヨーロッパ北海油田の開発は一つの成功例である。我が国が「東シナ海平和イニシアチブ」を提起するのは、関係国が争議を棚上げにして、多国間協力メカニズムを作り、東シナ海資源の共同開発をはかるためである。また連携の範囲を生態保護、海上救助、犯罪の取り締まりなどに拡大し、関係国の努力によって、東シナ海を「平和と連携の海」にしたいと切望している。

【外交部 2012年8月5日】

存在感増す台湾の国際参加

ウラジオストクAPEC首脳会議
連戦・元副総統が成果強調

ロシア・ウラジオストクで開催されたアジア太平洋経済協力(APEC)首脳会議に、台湾から連戦・元副総統が首脳代表として出席した。

APEC首脳会議は9月8日、9日に開催され、APEC域内の貿易投資の自由化および地域経済統合の基本原則を遵守していくことを確認した。最後にAPEC首脳宣言「成長のための統合、繁栄のための革新」が共同発表され、食料安全保障の強化、信頼できるサプライチェーンの構築、革新的成長のための緊密な協力などを促進していく方向性が示された。

胡錦濤氏が言及
台湾のICAO参加

APEC首脳会議に出席した連戦・元副総統が9月7日午前、胡錦濤・中国大陸国家主席と会見した際

に、双方が台湾の「国際民間航空機関」(ICAO)への参加推進について言及した。

これについて外交部は同日、次のコメントを発表した。

国際社会への参加空間の拡大は国民の願いである。政府は「活路外交」政策を推進後、2009年によるやく世界保健機関(WHO)年次総会のオブザーバーとなることのできた。WHO年次総会のオブザーバー参加の成果を例にとれば、与野党の一致した努力、国際社会の支持、及び兩岸関係の和解等の各種要素が揃うことが必要であり、そのようにして初めて成果が得られるのである。ICAOへの参加推進も同様であり、政府が国民と力を合わせて共に努力し、引き続き各方面の支持を求めていくものである。われわれは、今後台湾が適切な方式でICAO関連活動に参加できるよう大陸側が真剣に検討するとの旨を胡錦濤氏が言及し

たことに注目している。われわれはこれを一つの良い契機と認識しており、兩岸関係の進展とわが国の国際空間拡大は、互いに衝突するものではなく、互いを支え合うべきであることを再度ここに呼びかけるものである。

【外交部 2012年9月7日】

陳冲・行政院長
WHO活動の参加拡大目指す

陳冲・行政院長は5月31日の行政院会(閣議)で、邱文達・行政院衛生署長が訪問団をともし世界保健機関(WHO)年次総会にオブザーバーとして出席してWHO加盟国の支持を得たほか、10カ国とそれぞれ二国間会談を行い、国際医療衛生協力の新契機を促進し、国際社会に台湾が国際衛生実務に積極的に参加する決意と能力を広め、支持を広げたことに対し、邱署長ならびに訪問団関係者らに感謝の意を表した。

行政院衛生署は、現在WHOの主要討論テーマの流れが、伝染病のコントロール等から台湾が比較的実績を持つ「保健介護システム」へと移りつつあり、この新契機を活用して、

積極的に他国への支援に参加できれば、その影響力は大きく、台湾も「保健衛生大国」になることができるとの認識を示した。

【行政院 2012年5月31日】

台湾のUNFCCC参加
友好国が支持表明

「国連気候変動枠組み条約(UNFCCC)第17回締約国会議(COP17)」が、2011年11月28日、12月9日に南アフリカのダーバンで開催された。台湾と国交のあるUNFCCCの各加盟国は、COP17の会議開催前に、UNFCCCのクリスティアーナ・フィゲレス事務局長に書簡を送ると共に、COP17関係国会合において、台湾のUNFCCCへの加盟支持を表明した。

台湾はUNFCCCへの有意義な参加を通じて世界的な気候変動の問題対応に、積極的に貢献することを願っている。台湾は今後も、関係省庁、民間団体、国際組織と引き続き調整・協力し、全力で国際社会の支持を勝ち取るよう図っていくものである。

【外交部 2011年12月23日】

進化する台日特別パートナー関係

**廖了以・亜東関係協会会長来日
日華議員懇談会が歓迎**

台湾の対日窓口機関である亜東関係協会の新会長に今年2月10日に就任し、会長として初来日した廖了以（日華懇）が東京都内のホテルで開催した歓迎会に出席した。

歓迎会では、平沼赳夫・日華懇会長が、廖会長への歓迎の意を表した。廖会長はあいさつの中で、「台日関係増進のために微力を尽くすことができるのは、きわめて光栄なことだ。台日関係は、現在はこの40年間において最良の関係にあると言え、喜ばしい限りである」と述べた。

**馬英九總統が日本交流協会
榑井澄夫・台北事務所代表と会見**

馬英九總統は5月16日、日本の対台湾窓口機関である日本交流協会台北事務所代表に新しく就任した榑井澄夫氏と会見した。そのなかで馬総

統は「台日間の『特別なパートナーシップ』は継続的に安定した発展をしている。私が4年前に總統就任以降、台日双方は『ワーキングホリデー協定』『台日投資協定』『台日航空自由化協定』などを次々と調印した

ほか、今年4月には、亜東関係協会の廖了以会長と交流協会の大橋光夫会長との間で、『台日特許審査ハイウェイ覚書』および『マネーロンダリング及びテロ資金供与に関する金融情報交換に関する覚書』に調印した。これらは、台日双方がこの40年間においては見られなかった状況をこの数年間において切り開いたものであり、両国の関係発展にとりきわめてプラスになっていることを明確に示すものである」と強調した。

**馬總統が日本国会議員
祝賀団一行と会見**

馬英九總統は5月16日、日本の対台湾窓口機関である日本交流協会台北事務所代表に新しく就任した榑井澄夫氏と会見した。そのなかで馬総

統は「台日間の『特別なパートナーシップ』は継続的に安定した発展をしている。私が4年前に總統就任以降、台日双方は『ワーキングホリデー協定』『台日投資協定』『台日航空自由化協定』などを次々と調印したほか、今年4月には、亜東関係協会の廖了以会長と交流協会の大橋光夫会長との間で、『台日特許審査ハイウェイ覚書』および『マネーロンダリング及びテロ資金供与に関する金融情報交換に関する覚書』に調印した。これらは、台日双方がこの40年間においては見られなかった状況をこの数年間において切り開いたものであり、両国の関係発展にとりきわめてプラスになっていることを明確に示すものである」と強調した。

馬英九總統は、祝賀団一行を歓迎し、「台日関係をきわめて重視しており、今後も全力でさまざまな交流や協力を推進し、双方の友好関係をより一層深め、切り開いていきたい」との意欲を示した。

**社団法人「亜東親善協会」
安倍晋三・元首相を新会長に選出**

社団法人亜東親善協会の年度総会および懇親会が5月7日、東京都内のホテルで開催され、総会において玉澤徳一郎会長が同協会名誉会長に選出され、新会長に安倍晋三・元首相（衆議院議員）が選出された。

懇親会では、安倍・新会長の代理として山本順三・同協会副会長（参議院議員）があいさつし、岸信介・元首相らの提唱により創設された「アジア・太平洋国会議員連合」（APPUC）等の枠組みを活用して今後台日間の議員交流を深めていく意欲を示した。

**沈斯淳・駐日代表
日本「交流協会」を表敬訪問**

5月30日に着任した台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・駐日代表は、6月1日に交流協会東京本部に大橋光夫会長、今井正理事長らを訪ね、新任のあいさつを行った。

沈代表は、あいさつの冒頭で「駐日代表処は今後も、日本交流協会の関係各位と協力関係を強化し、台日関係のさらなる発展のために共に尽力していきたい」と述べた。

大橋会長は、「昨年6月に会長に就任後、台湾へ昨年2回、今年1回訪問したが、その際、沈代表とは外交部の常務次長として毎回お会いしており、昔からの関係のような気がしている。今井理事長は2年間台北



沈斯淳代表（左）と大橋光夫会長（右）

にいたので、沈代表とは老朋友（古くからの友人）の関係であろう」と歓迎の意を示した。

沈斯淳・駐日代表 日華懇議員総会で挨拶

台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・駐日代表は6月14日、東京都内のホテルで開かれた日本の超党派国会議員からなる日華議員懇談会（日華懇）の議員総会に出席した。

同総会には平沼赳夫・日華懇会長、藤井孝男・日華懇幹事長、衛藤征士郎・衆議院副議長をはじめとする日本の与野党国会議員らが出席し、沈代表を歓迎した。



沈斯淳・駐日代表（中央）
日華懇の平沼赳夫会長（左）、藤井孝男幹事長（右）

日本語で挨拶した沈代表は、「今年5月30日に駐日代表に着任し、今その責任の重さを深く感じている。台湾では外交部の事務次官を務め、台日間の実務を注視してきた。平沼会長ならびに議員の先生方が、長年にわたり台日関係の推進にご尽力いただいたことも、十分に理解している」と述べ、過去4年間に日華懇の協力の下で、台日関係が大幅に進化したことに感謝の意を示した。

沈代表はさらに、「わが国は国際原子力機関（IAEA）等への参加や、二国間および多国間の自由貿易協定（FTA）を締結して、国際社会と共に歩むことを望んでいる」と強調し、日本の協力を呼びかけた。

王金平・立法院長訪日団 東北の被災地訪問

王金平・立法院長（国会議長）を団長とする訪日団が7月1日に来日した。同訪問団は、李鴻鈞・立法院日交流聯誼會會長および台湾の与野党超党派の立法委員（国会議員）らのほか、中華民国紅十字會（赤十字會）、「仏光山」、「ワールドビジョン」などの慈善団体代表、並びに旅

行業関係者らからなり、一行は来日後、4日間にわたり宮城県および福島県の震災被災地を訪問し、5日と6日に、都内で議員外交を行った。

王・立法院長は帰国前の記者会見で今回の訪日の成果を語った。挨拶の中で、「今回の来日の主な目的は、1つには被災地を訪れ、被災地域の各種の状況を実際に見て回ることだった」と述べ、「台湾からの義援金については、極めて具体的且つ適切に用いられていると感じた」と強調した。

また、もう1つの目的として「日本の政党、行政部門、国会関係者への訪問である」と述べ、自民党の谷垣禎一総裁、民主党の前原誠司・政策調査会長、尾辻秀久・参議院副議長、衛藤征士郎・衆議院副議長をそれぞれ表敬訪問したほか、日華議員懇談会の議員らとの交流を行ったことについて言及した。

「在留カード」制度スタート 国籍・地域欄で「台湾」明確化

日本政府は日本に在留する外国人の新しい在留管理制度を7月9日より実施し、「在留カード」の交付が同日スタートした。在日台湾人が所

持するこれまでの「外国人登録証明書」の国籍欄が「中国」になっていた表記に関して、新しく発行される「在留カード」の「国籍・地域」欄では「台湾」と改正された。

豪雨水害の熊本県と大分県 台湾から見舞い金

台北駐日経済文化代表処の羅坤燦・副代表は7月24日午後、沈斯淳・駐日代表の代理として熊本県東京事務所を訪れ、豪雨による水害が発生した熊本県および大分県に、台湾の政府を代表して、見舞い金50万円を寄贈し、両県の代表者にそれぞれ手渡した。

羅・副代表は「今回の熊本県と大分県の豪雨水害に対してわが国は非常に心配しており、楊進添・外交部長からも梅井澄夫・交流協会台北事務所代表にお見舞いの意を伝えた」と述べ、今回の災害からの一日も早い復旧と復興を祈念した。

本誌記事の転載について

本誌の記事を他の刊行物に転載される場合は、本誌から転載の旨を明記の上、掲載紙（誌）を三部必ず当社あてにご送付願います。ただし、他紙（誌）からの転載記事の再転載は固くお断り致します。（台湾週報社）



沈斯淳・駐日代表(左2)と林則媛・代表夫人(左1)
台湾観光親善大使の小林幸子さん(右3)

ますます深まる観光交流

台湾観光サブ・メッセージ 「思い立ったが台湾吉日」

台湾観光局・台湾観光協会が募集した台湾観光の日本語サブ・メッセージ投票キャンペーンの最終結果発表記者会見が、8月30日に東京・白金台の台北駐日経済文化代表処で開かれ、投票数が最も多かった「思い立ったが台湾吉日」が最優秀作品に選ばれた。

記者会見には、台湾観光親善大使で歌手の小林幸子さんが特別ゲストとして出席し、東日本大震災に際し、台湾の人々がいち早く義援金や温かい心を贈ってくれたことに感謝の意を示し、「これからも台湾と日本の架け橋となれるよう精一杯頑張っていきたい」と強調した。

沈斯淳・駐日代表は「台日両国はお互いに大切な友人同士であり、最も重要な観光パートナーである。今年1月〜7月に双方を往来した観光客数は約171万人で、前年比30%増となった。観光を通して台日双方の交流がさらに発展し、絆がより深まるよう期待している」とあいさつした。

第5回「台日観光サミット」 花蓮で盛大に開催

「台日観光サミット」が7月6日、台湾東部の花蓮で開催された。同サミットでは、効果的な航空路線の運航、より多角的な優遇措置や

セールス・ルートなど、台日オープンスカイ(航空自由化)時代の到来への対応を強化し、それにより旅行商品の強化および観光市場の成長を促進していくことが決議され、双方間の訪問者数300万人の目標を早期に達成させることも決定した。

【交通部観光局2012年7月6日】

東北の夏祭りに台湾観光応援舞踊団

台湾観光局は8月上旬に日本の東北各地で開催される夏祭りに合わせて台湾観光応援舞踊団を派遣した。

同舞踊団は台湾龍舞や獅子舞を披露したほか、台湾で大人気の、道教の少年神にふんしてテクノ音楽に合わせた踊る「電音三太子」も登場。

8月2日の盛岡さんさ踊りパレード、3日の福島わらじ踊りパレード、4日の山形物産市イベント、5日の山形花笠まつり、6日の仙台市内特設ステージなどでパフォーマンスを披露した。

電音三太子「汐博2012」に登場

日本テレビの夏のイベント「汐博2012」屋外ステージで、8月18日および同19日に、台湾観光局およ

び台湾観光協会による台湾観光プロモーションが行われ、「電音三太子」も登場した。また、台湾の人々を選んだ「台湾十大観光小城」の観光スポット(鹿港、大溪、大甲、美濃、安平、礁溪、集集、北投、瑞芳、金城)を紹介するミニバスケットボールゲームが行われた。

台日航空自由化で続々路線拡大

昨春秋に台湾と日本のオープンスカイ(航空自由化)協定が結ばれたことから、台湾の中華航空(チャイナエアライン)は日本路線の増便と乗り入れ空港を増加させた。

中華航空は、3月25日より台湾桃園―鹿児島線と桃園―静岡線の定期路線が就航。そのほか、4月16日から中華航空の桃園―富山線が就航した。

台湾の復興航空(トランスアジア航空)は、6月28日に同社にとり初の台日間の定期便となる台北(桃園)―大阪(関西)線が就航した。復興航空は、日本を結ぶ路線の定期化を進め、9月に那覇、函館、札幌(新千歳)、旭川、釧路等を結ぶ路線を開設した。